九州建設情報社

福岡県、次期農林水産振興基本計画の素案を発表

「儲かる農林水産業」目指し県民意見（パブリックコメント）募集を開始

福岡県は、令和９年度からの５年間に向けた「次期福岡県農林水産業・農山漁村振興基本計画」の素案を取りまとめ、県民からの意見募集（パブリックコメント）を開始した。資材価格の高騰や高齢化に伴う担い手不足、激甚化する気候変動・自然災害など厳しい情勢に対応し、若い世代が夢と希望を持って挑戦できる「儲かる農林水産業」の実現を目指す。

現行の計画（令和４年度～８年度）では、輸出額の拡大や新規就業者の確保など多くの施策目標が概ね順調に推移し、県内の農林水産産出額も約２６００億円規模を維持してきた。しかし、肥料・飼料・重油などの生産コスト高騰が販売価格の伸びを上回るほか、就業者の高齢化や猛暑・大雨の頻発といった新たな課題が顕著になっている。

素案では、こうした課題に対処するため「好循環を生み出す４つの基本戦略」を掲げている。①「生産力と収益力の強化（構造転換）」では、「園芸ＡＤＴＥＣセンター」をはじめとする拠点で先進技術（ＡＩ・ロボット等）やＤＸの活用を推進し、省力・高品質生産を確立。農地・森林・漁場の集積や大区画化を進める。②「次代を担う多様な「人財」の確保・育成」は、企業マインドを持った「企業型経営体」の育成や、新規就業者への一貫支援のほか、女性、障がい者（農福連携）、外国人材の活用など幅広い働き手を呼び込む環境を整備する。

③「戦略的なマーケティングで販売・消費拡大」は、「食の王国・福岡」のブランド戦略を強化し、海外輸出や有名店と連携したフェアを展開。モーダルシフトなどによる物流効率化や、適正価格に対する消費者の理解醸成にも取り組む。④「災害に強く環境と調和した土台づくり」では、流域治水やため池などの防災・減災対策を強化。ブルーカーボン創出や「ふくおかジビエ」推進等の鳥獣被害対策、減農薬栽培など環境配慮型の地産地消を進める。

県では、計画の策定にあたり県民からの意見を広く募集している。募集期間は令和８年１１月１７日（火）１７時まで。対象者は、県内に在住・通勤・通学する方、または県内に事務所等を有する個人・法人・団体で、所定の様式に記入のうえ、郵送、電子メール、または「ふくおか電子申請」にて提出（電話での受付は不可）。提出・問い合せ先は、福岡県農林水産部農林水産政策課企画広報係（メール：n-kikakukoho@pref.fukuoka.lg.jp）。